

# 小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 53

2025年3月8日(土)発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

## 全国高等学校鉄道模型コンテスト 2024

### 全国最優秀賞(全国1位)/文部科学大臣賞2冠受賞

#### 白梅学園清修中高一貫部 鉄道模型デザイン班顧問 中澤亜紀

鉄道模型の甲子園とも呼ばれる「全国高等学校鉄道模型コンテスト 2024」において、3年ぶり2度目の最優秀賞を受賞することが出来ました。鉄道模型の活動を



開始してから、今年で13年目になります。今年の合言葉も「妥協しない」。世代交代が繰り返される学校という場でありながら、技の伝承と先輩たちの熱い想いも受け継がれていることを具現化した今大会は、生徒たちにとっても私にとっても人生

を大きく左右する成果となりました。

入賞常連校と呼ばれる清修中高一貫部のライバルは、あの名門校、灘中学校・灘高等学校。2022.2023年度の最優秀賞受賞校です。ライバルでありながらも、制作技術を共有し合い、互いを高め合う生徒たちの姿から、ものづくりが単に制作に留まらず、コミュニケーション能力や問題解決能力を養う場であることを実感しました。

大会のメインとなるモジュール部門は、既定の60×60cm(曲線)・90×30(直線)のボードの上に各学校の想

いを1/150スケールで作り込んでいきます。「今年こそ

は！」と意気込み、選んだ舞台は岐阜県。生徒4人と

顧問で訪れたい岐阜の

名所をストーリーと共に思

存分詰め込みました。制作

期間は2か月ですが、勝敗

を決める構想に時間を費や

しました。旧神岡鉄道の線

路を使った「レールマウン

テンバイクガッタンゴー！」や

日本三大朝市の1つである「宮川朝市」、清修の真骨

頂とも言える「水や木の表現」をはじめ、生徒や先生の

名前を模型の中に盛り

込むなど、見る人を飽き

させない唯一無二の模

型が完成しました。また、

今年是最優秀賞の副

賞として、ドイツのシュ

ットガルト遠征にも行

きました。現地で行われている世界大会に参加し、英語

でプレゼンテーションをしたり、各国のお料理を持ち寄

ってパーティをしたりと多くの方との交流もしました。物

怖じせず交流をする姿は、とても頼もしく誇らしかった

です。現地での成果は、来場者投票、参加者投票共に2

位を受賞しました。この経験を経て、生徒たちの視野が

広がり積極性が増したことは言うまでもありません。この

ような貴重な経験をさせていただき、この活動を応援

して下さる全ての方に心より感謝します。ありがとうございました。

#### 小平西地区地域ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

# 白梅あそぼうかい&世代間交流広場

## 落合なおみ(保育科1年)・仲村心菜(保育科1年)

2024年11月30日に、あそぼうかい&世代間交流広場会を開催しました。今回は「収穫祭、旬のものを知ろう」というテーマに沿って、秋の実りの豊かさを感じられる装飾や遊びの準備に尽力しました。当日には多くの方がご参加くださり、それぞれ違いのあるコーナーで楽しんでいただけるようなあそぼうかいにすることができました。



あそぼうかいには、5つのコーナーで展開されています。1つ目は参加者さんが最初に行く「受付」です。焼き芋のような温かさや、旬の様々な食べ物や植物を感じられるような装飾を行いました。木に吊るされている紙製の柿や栗を収穫し、名札を作成していただきました。足元に花の絵柄を貼り付けて移動しやすようにしたり、フオスポットをつくったりして、秋を感じられる工夫をしています。

2つ目は子どもも大人も楽しめる「あそびコーナー」です。神経衰弱のようにカードに描かれた秋の食べ物の絵を揃える「絵合わせ」、ミニプールに新聞紙を敷き詰めて様々な果物の制作物を探し出す「宝探し」、落ちてくる旬の食べ物の制作物を拾い集める「籠入れ」の3種類の遊びがあります。それぞれの遊びを体験してスタンプを集めると、折り紙のメダルが貰えるといった達成感を得られる工夫をしました。

3つ目のコーナーは好きなものに対して個性を活かせる「せいさくコーナー」です。新聞紙と折り紙を使って色や形の発想力を豊かにする「焼き芋作り」、切ることを学びながら装飾の可能性を広げる「きのこ作り」、新聞紙を好きなように破る楽しさを視覚と聴覚から感じ取れ

る「栗作り」の3種類の制作があります。それぞれ好きな旬の食べ物を好きなように感じ取れるよう、子どもの発想を大事にしました。



4つ目はゆったりと静かに遊べて心身が休まる「ホッとスペース」です。どんぐりを入れて触覚や聴覚で秋を楽しめる「ペットボトルおもちゃ」を中心に、秋の食べ物や行事を感じる絵本や塗り絵、折り紙を行いました。ホッと一息できるような空間を大事にしました。

5つ目はそれぞれのコーナーで思いっきり楽しんだ後のエンディングのような「おわりのつどい」です。手遊びや「あきやさいのあきわっしょい」という絵本を元に劇を行いました。たくさんの食べ物が出てきて最初は争っていましたが、食べ物同士を活かす料理を作り出し、みんな仲良く食事をするという内容です。参加者さんも学生も、みんなで楽しむような雰囲気を大事にしました。

この5つのコーナーの他、今回のあそぼうかいでは「子育て川柳」を展示しました。講義の中で学生が考えた川柳をホワイトボードに展示し、参加者さんに投票をお願いしました。前年はシールでの投票でしたが、好きなマークをボードマーカーで描いていただく方法で行い、子どもから学生、大人まで、個性を活かし楽しめる投票を行いました。

また、今回は朝鮮大学の学生の方と協力し、どのようにすれば参加者さんが安全に楽しめるか考えて準備を進めました。今年度開催したあそぼうかいの経験を踏まえ、より良いイベントに出来たように思います。当日の参加者さんの笑顔を見て達成感を感じ、学生にとって大変貴重な学びの機会となりました。

# 富寿美会(高齢クラブ)の地域のつながい活動として!

## 石川 隆

富寿美会の初もうでバス旅行を、1月27日実施しました。「熱海・梅園見学と来宮神社」に行って来ました。この冬一番の寒さということもあり参加者は少な目でしたが26名の参加でした。道路も順調で、熱海の「お宮の松」や「熱海桜」を車中から眺めながら熱海梅園に直行、いつもは1月末には梅も咲いているのだそうですが、今年は地球的規模の気候変動せいか、まだ2分咲きの状況でした。梅園は坂道の多い所ですが、自分の体力とも相談しながら坂を登りきると、一部に満開の梅の花も観賞出来ました。その後は来宮神社へ。熱海のパワースポットとして人気の神社で若い人を中心に、インバウンドの人達も含めて1月下旬の初詣とは思えないほどの人出となっていました。来宮神社の御神木・大楠(おおぐす)(樹齢2100年超・周囲23,9mも・高さ26m)も人気で列を作っていました。「一周すると1年寿命が延びる」と言われていて何周もまわる人もいましたが、混雑でとりあえず1周してきた人がほとんどでした。大騒ぎをしながらも、お参りは無事済ませて来ました。お土産も買い、美味しい昼食もたべて明るいうちに小平に帰ってきました。

高齢クラブの旅行は「焦らず、急がず」をモットーにしながら、「自宅玄関に入るまでが旅行中です」と言う立場で取り組んでいます。いつもは会わない人達(旅行参

加者)とのバスの中での「他愛もないと思われる様なおしゃべり」が楽しいし、元気の源として明日からの力にもなっているのではと思います。



高齢者の地域とのつながりの希薄化は、内閣府の調査でも明らかにされています。「近所の人たちと親しく地域で付き合っている」という人が1988年には64.4%いましたが、2014年時点では31.9%と30年で半減しているという状況です。今ではもっと少なくなっていると思われる。富寿美会の活動が少しでも地域でのつながりを作る第一歩になればと考えています。どうぞ「富寿美会」に参加して自分の体力に合った活動をしながら、地域のつながりを作ってみませんか。

# 小平南西部地域コミュニティ交通をみんなで考える会

## 説明係り 岩井 洋

昨年6月より小平市の事業として市の南西部地域で「乗合タクシー」実証実験運行が行われています。期間は5月末まで。それまでの実績次第で、本格運行となるかが決まります。1月20日に運行エリアの大改正があり、乗車数が3倍増となりましたが、まだ目標値には至って

いません。もっと利用者を増やして本格運行に繋げたいところです。

さて「乗合タクシー」とは何か?バスとは違って「定ルート・定時運行」ではありません。タクシー同様「乗りたいところから乗って、行きたいところに直接行きます。しかも料金1人300円(定額)と格安です。ただし、乗り降りできるのは地域内69か所の「乗降ポイント」に限られます。なおバス同様、途中で他者との「相乗り」が発生することがあります。またタクシー同様、乗車予約が必要です。つまり、バスとタクシーとの中間的な、新しい乗客輸送サービスなのです。



南西部地域とは、小平市を青梅街道と西武多摩湖線で4つに割った左下の地域です。現在はここでのみ展開しています。主な利用者は高齢者や障害者などの「移動困難者」です。

他の3地域には、小平市が提供する公共交通として、コミュニティタクシー「ぶるべー号」が営業運行していますが、南西部地域にだけありません。実は過去3回この地域でもぶるべー号の試験運行を行ったのですが、事績が伴わずに本格運行に至りませんでした。

なぜ南西部地域だけダメだったのか？この地域には

南西部地域乗合タクシー

1/20月から

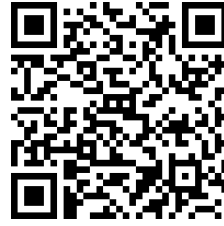
南西部地域 全域で走ります

令和6年6月10日から実証実験運行中の南西部地域乗合タクシーは、運行エリアを2つに分けて曜日別に運行しています。この間に、地域の声やアンケートで、エリアを一つにして毎日運行してほしいとの要望が多く寄せられました。そこで、さらに多くの方にご利用いただくため、エリアを一つにすることにしました。

変更後の運行期間は、令和7年1月20日(月)から5月30日(金)までです。

まともな道路がありません。あっても狭いし、少しましな道路には既にバスが通っているため、これを避けてル

ートを作る必要がありました。それやこれやで乗車実績がふるわず、廃線となってしまったのです。



今回、関係者の「今度こそは！」との思いと骨折りとで、この地に乗合タクシーが導入されました。これが最終手段です。これでダメなら南西部地域だけ、公共交通は永遠に導入されないでしょう。関係者一同、今は南西部地域の移動困難者の足を何とか確保したいとの思いでいっぱいです。

乗合タクシーは、現在全国各地で試験導入されていますが、成功例は多くはありません。近隣では三鷹市が3年前に導入しました。今では市民の足として定着し、営業エリアも拡大しています。小平もこれにならって、多摩地区第2の成功事例としたいです。今は南西部地域限定ですが、利用が増えれば他の地域にも展開できます。そのためにも、まずはこの地で移動手段として定着させたいのです。なお、ご利用にあたっては、利用者登録(QRコードから)が必要になります。みなさまのご理解とご協力とを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 学生が地域に関わるということ

### 武蔵野美術大学 視覚伝達デザイン学科 4年 高橋智子

武蔵野美術大学の高橋智子です。私は子ども食堂の取材をきっかけに、専攻であるデザインを活かした子ども食堂のレポート本や地域のイベントチラシを作成しました。今では地域活動に深く関わっていますが、その始まりは意外にも遅く、きっかけは大学3年生の夏に参加した「こたいらNPOセミナー」でした。このセミナーは、



大学生と小平市のNPO団体をマッチングするイベントです。

私のそれまでの大学生活は、課題をこなすことで精一杯でした。また、学外で自分のデザインが活かせる場がないとい

う悩みも抱えていました。

しかし、セミナーをきっかけに初めて訪れた子ども食堂では、ボランティアの方々が私を快く迎え入れてくれました。そして子ども食堂は地域の人々の居場所としての役割を持つことや、自分の住む街にこんなにも面白い人がいることを知り、多くの発見がありました。



この取材を通じて白梅学園理事の細江卓朗さんと出会いました。その後数箇所の子どもの食堂を巡って、80ページにまとめたレポート本を完成させ、芸術祭などを通してたくさんの人に届けることができました。

地域活動の面白さは、少し足を踏み出すだけで、関わった人々がさらに新しい場所へと連れて行ってくださるところにあります。小平と

いう広くはないフィールドにもかかわらず、人が人を呼び、活動が広がっていくことを実感しました。

武蔵野美術大学には 4000 人ほどの学生が在籍しています。美術を学ぶ若者がこれだけ小平市に出入りしていることを考えると、この街にはもっと楽しくなる可能

性があると感じています。私はもうすぐ大学を卒業しますが、地域というフィールドで自身の力を発揮するアーティストやデザイナーがもっと増えればいいなと思っています。

# 小平市デコボコキッズ父親の会

## 細江信

障がい児を持つ同じ境遇のパパ達と繋がりたい！そんな思いから「小平市デコボコキッズ父親の会」を発足させたのは 2024 年 1 月のことです。

私の娘は現在 11 歳(特別支援学校 5 年)、知的障がいと下肢障がいがあります。重度な障がい児である娘が特別支援学校に入学したのは 2020 年 4 月、まさにコロナ真っ只中でした。小学校に入り、同学年の家族と仲良くなりたい！そんな私の願いも虚しく、コロナ禍での障がい児育児は孤独でした。

娘は家でじっとしていられないタイプであり外遊びが基本です。平日は妻に任せきりであるため、休日は私が外へ連れ出すことが多くありましたが、思うように発達していかない娘と 1 対 1 で向き合っていると気が滅入り、精神的にもつらい。こんなときに誰かと会話しながら子育てができればどんなに楽だろうか。悩みや不安を分かち合いたい。そんなことを考えていました。

一般的に子どもと接する時間や障がいに関するコミュニティへの参加が少ないとされる父親は、母親に比べて障がい受容も遅いといえます。しかしながら、男女共働きが当たり前になっている昨今、父親の育児への積

父親の会では、障がいに関する情報発信や地域イベント情報の共有を中心に、バベキュー、花火、ハロウィンやクリスマスパ



## メンバー募集!

障がいのある我が子育てるのは日々、絶望の連続です。同じ境遇のお父さんたちと繋がって、少しでも楽に子育てを楽しみたい！そんな思いから「小平市デコボコキッズ父親の会」を発足しました。

●活動内容  
障がいのある子供を育てるのは日々、絶望の連続です。同じ境遇のお父さんたちと繋がって、少しでも楽に子育てを楽しみたい！そんな思いから「小平市デコボコキッズ父親の会」を発足しました。

●参加方法  
障がいのあるお父さんは、「小平市デコボコキッズ父親の会」公式LINEに  
お電話で登録してください。  
\*子育ての悩みや不安を相談・質問も受け付けます。  
\*代表・副代表/事務局 (小倉井特別支援学校保健室)

お問い合わせは、lkodaira.dekobokokids2024@gmail.com までご連絡ください。

ーティーなどのイベントも開催してきました。皆さんと会話するたびに、横の繋がりの必要性を感じています。手を取り合っ、少しでもより良い方向に向かっていくことができれば何よりです。

皆さんそれぞれに特性の違うお子さんを持ち、悩みを抱えながら必死で子育てをしています。是非我々の活動を応援いただけますと幸いです。

※下記QRコードを読み込みますと、活動の詳細が確認できます。

※下記QRコードを読み込みますと、活動の詳細が確認できます。



極参加も多く見られます。私がそうだったように、誰かと繋がりたい父親はいるはずだと思いました。



最後になりますが「白梅学園大学小平市連携療育事業」である造形ワークショップ等、杉山ゼミの各種取り組みにこの場を借りて御礼申し上げます。思うように進められない子どもたちが多くなか、否定せずに認めてあげる、褒める環境設定が子どもたちの自己肯定感を上げ、向上心に繋がっていると思います。

# ベトナム旅行(その1)

## 安形元伸(白梅学園短期大学教員)

私は瀧口氏(白梅学園短期大学名誉教授)と2024年12月22日から12月31日まで10日間、ベトナムを訪問する予定になっていた。瀧口氏とベトナムへ行くのはこれが2回目だ。彼はこれまで30年間ベトナムを訪問し多くの友達もいる。会話は英語だ。彼は私にとって通訳であり旅先の案内人でもある。

12月22日、わたしたち2人は始発で成田に向かった。搭乗手続きを済ませるため1時間並んだ。やっと私たちの番が来た。私は手続きにパスしたが瀧口氏はパスポートの期限が6か月に満たない為搭乗できなくなった。飛行機に乗るぎりぎりの時間まで瀧口氏と二人でスマホを使って彼の個人ビザ申請をしていた。もう時間がないということで私は1人でハノイのノイバイ空港への便に飛び乗った。もちろん円をドンに換金もできなかった。お土産として「白い恋人」を10個売店で包んでもらい、日本のタバコを5カートンビニール袋に入れてだけである。ベトナム行きに胸を踊らせるどころではない。私の気持ちは不安しかなかった。「言葉が通じない!」「お金もない!」「これからどうしたらよいか!」「10日間もあるぞ!」。私は目の前が真っ暗になってしまった。

私は勇気をだして、隣に座っている青年に声をかけた。彼は24歳。6年前日本にやって来て自動車の専門学校に入学し、今は新潟県にあるホンダのディーラーで整備士として働いているとのこと。今回は長期の休暇をもらい1月下旬のテト(ベトナムのお正月)まで帰省するらしい。日本人は親切にしてくれているようだ。ほっとした。

さらに、機内食で出されたナッツを食べないかと彼に言ってみた。そこで私は「空港の外で友人のティン氏と待ち合わせているのだが、彼に行き会えるまで一緒にいてくれないか」と尋ねてみた。彼は「オッケー」と言ってくれた。これでノイバイまでの数時間、やっと寝ることができるかもしれないと思った。実は前日まで旅行を準備が終わらせることができなくて、就寝したのは午前1時だったのである。早朝3時半に起床しての始まりだった。

友人のティンと書いたが彼とは2回しか会っていない。まだお互いよく知り合っていないのである。ノイバイ空港でティンから電話があったが彼は英語で話すので私にはさっぱり理解できない。ティンを探すこと30分。「まいったなあ」と思っている時、「アガタ!」だった。

ティンの横に体の大きい2人の男性が立っていた。2人が私の荷物をもって来て車に乗せられた。ティン

が用意した車で4人でハロン湾に行くようだ。ベトナムで有名な景勝地である。初めて会う2人がだれだか分からない。頼みのティンは運転に集中している。英語が話せない、聞き取れない。しかもとても緊張していた。2人の男性も私にどう話しかけたらよいか困っていたかもしれない。無言で1時間が過ぎた。気まずい。しかしなんとなく心あたったかい2人の人柄が伝わってきた。突然ティンが「アガタ、何か話せ」という。「困った!」と思った。私は思い切って自分の名前を言った。

ティンの友人はワンさんとベイトさん。ティンは国立ハノイ大学の英語と生理学の先生である。ワンさんは事務員でベイトさんは校務員とのこと。

3時間かかってホテルに着いた。近くのレストランで夕食である。ベトナムの人は親切だ。野菜豊富なサラダ? 魚介類たっぷりの鍋。食べ方を手取り足取り教えてくれる。ハーブがふんだんに盛り付けてある。生で食べるのもいいし鍋に入れてもいい。最初はビール(グラスに氷を入れて飲む)だったが、「ベトナムのワイン」と彼らが言う、お米で作ったと思われる焼酎らしきものを小さいグラスにいれて「チアーズ」といって延々と乾杯するのである。それもストレートで。

気持ちが少しほぐれてきたが、同時にベッドで横になりたいという気持ちもあった。2時間はいたらどうか。ホテルに帰ることになった。内心ほっとした。そこはティンの教え子が勤めているホテルとのこと。私は、「これでシャワーを浴びて1人になって一服できる」と思った。ところが...

部屋はホテルの4階だったが、そこにはラウンジがあり



料理とお酒が用意してあった。これにはおどろいてしまった。そして、部屋は1人部屋ではなく、私はティンと2人部屋だった。さら

に、ラウンジに2人の人が増えていた。ワンさんの弟とその友人とのこと。弟さんはニコニコしながら自分で作ったというベトナムワインを持参していた。瓶は日本のニッカウキスキーの使い古されたものである。彼の人間としてのやさしさが伝わってくる。

私は彼に「イナフ、イナフ」と言ったがニコニコしながら「オッケー」と言われ乾杯が始まった。どうも言葉が伝わっていないらしい。さらにティンの教え子の女性従業員も加わって7人で2次会が始まった。笑って、握手して、「チアーズ」である。ベトナムの人は明るい。言葉は通じないが、たくさんの人たちで私のことを歓迎してくれていることが伝わってきた。

ティンの人柄もあるからこのようなことができるのだと思った。もちろんティンの気持ちも伝わってくる。私は、瀧口氏が30年かけて作りあげてきたベトナムの人たちとの絆を肌で感じる事ができた。本当にありがたいことだ。

このような体験はツアーで味わうことはできない。しかも、私はお金をもっていない。カードだけである。そのことをティンに伝えるが、かれは「問題ない」と言うだけであ

る。私を銀行に連れていってくれと懇願するが、彼はそのたび毎に「問題ない」と言う。それでは「お店の支払いがカードでしょう」と思った。しかし、連れられたお店はとてもカードが使えるとは思えないような雰囲気なのである。ついにはあきらめてしまった。

私は自己紹介のため名刺入れから自分の名刺を彼らに渡した。ティンはお互いの名刺入れを交換しようと言いつつ出した。私のなかになんとも言えない感情が沸いてきた。「うれしいなあ」と思った。私たちはお互いの名刺入れを交換したが、ティンの名刺入れは私の宝物になっているし現在も大切に使っている。このような様子でベトナムでの1日目が終わった。私はティンや彼の友人との出会いを大切にしたいと思っている。(続く)

# 「ちょっとサービス鷹の台」のある街

## — 12月地域懇談会報告に代えて —

### 瀧口優(西ネット事務局)

12月の地域懇談会は、1年前からスタートした「ちょっとサービス鷹の台」(「ちょこさ」)代表の桃木さんから立ち上げた思い、地域の依頼を受けて取り組んできたこと等について、ユーモアを交えた話をさせていただきました。想像を超えた依頼があり、それをメンバーで協力しながら解決してきています。私自身もあき缶処理に参加させていただき、アルミ缶なのできれいに洗って障がい者施設に届けました。

そんな私ですが、年末の検査で前立腺のガンが見つかり、この2月に摘出の手術を行いました。今はリハビリ中ですが「ちょこさ」のありがたさを心から感じています。

今「ちょこさ」は地域包括支援センター(けやきの郷)からの依頼を基本にしながらすすすめています。身近なところでの「ちょこさ」こそ本来の姿かなと思います。リハビリ中ですがゴミ出し、買い物、そして食事の差し入れ、そして何よりも人が来てくれることのありがたさです。1日中誰とも話さないで過ごす不安もありますが、私の周りの「ちょこさ」は必ず声をかけてくれます。

今はまだ自宅での生活中心ですが、半年リハビリを頑張れば前のように動けるとのこと、今度は自分が「身近なちょこさ」ができるようにしたいと思うこの頃です。

### 3月の歌

#### 金田利子

- ◆ 年金下げ物価を上げて軍事費に 民には我慢を強いる政権
- ◆ 金属はすべて召し上げ戦争へ 形を変えて今同じ道
- ◆ この道は在日差別につながりて 税金は課し権利に格差
- ◆ 3月は年度の節目この道の 変革めざす決意新たに

**皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～③)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?**

**お待ちしております!**

**① ほっとスペースさつき**

毎週火曜と木曜 10:00~16:00 (移転先検討中)

**② ほっとスペース第二きよか**

毎月第1月曜 13:30~15:30 参加費 200円 (移転先:小平市小川町 1-755-2-106) 問合せ:瀧口優 TEL: 080-3450-6878

\*2023年7月10日(月)「ほっとスペース第二きよか」がスタートしました。

\*第一もしくは第二月曜に実施しています。(今後の予定は、4月7日、5月12日、6月2日、7月7日) 13時30分~15時30分です。

**③ カフェなかじま**

毎月第1水曜日(祝日の場合は第2水曜日) 13:30~15:30 中島地域センター 参加費 100円

**④ 「分かった会」小中無料学習教室**

毎週木曜日 18:00~20:00 (小川公民館) 問合せ:奈良 勝行 (講師募集中!) TEL:090-4435-4306

9月からは火曜日も中学校3年生用として開室しています。

**イベントの予定**

- ・04月06日(日) 11時~ だれでも食堂ゆらり
- ・04月27日(日) 10時~ おがわん(小川ホーム)
- ・05月04日(日) 10時~ だれでも食堂ゆらり
- ・05月25日(日) 10時~ おがわん

**西ネットの今後の予定**

- 大学世話人会:** 04月08日(火) 18時~
- 地域世話人会:** 05月13日(火) 18時~
- 大学世話人会:** 05月27日(火) 18時~
- 地域懇談会:** 06月10日(火) 18時~

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳
2	足立隆子・今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	大内智恵子・久保田進・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠 細江卓朗	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行

西ネットの世話人を募集しています。瀧口まで連絡してください。(takiguchi-masaru@iaa.itkeeper.ne.jp)

**お願い:** この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

**投稿募集:** このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール: [ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp](mailto:ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp)

**編集後記:** 「小平西のきずな」も今回で53号を迎えます。西ネットのスタートから13年が経過していますが、今後も人と人をつなげることを柱に取り組みを続けたいと思います。(瀧口)。